

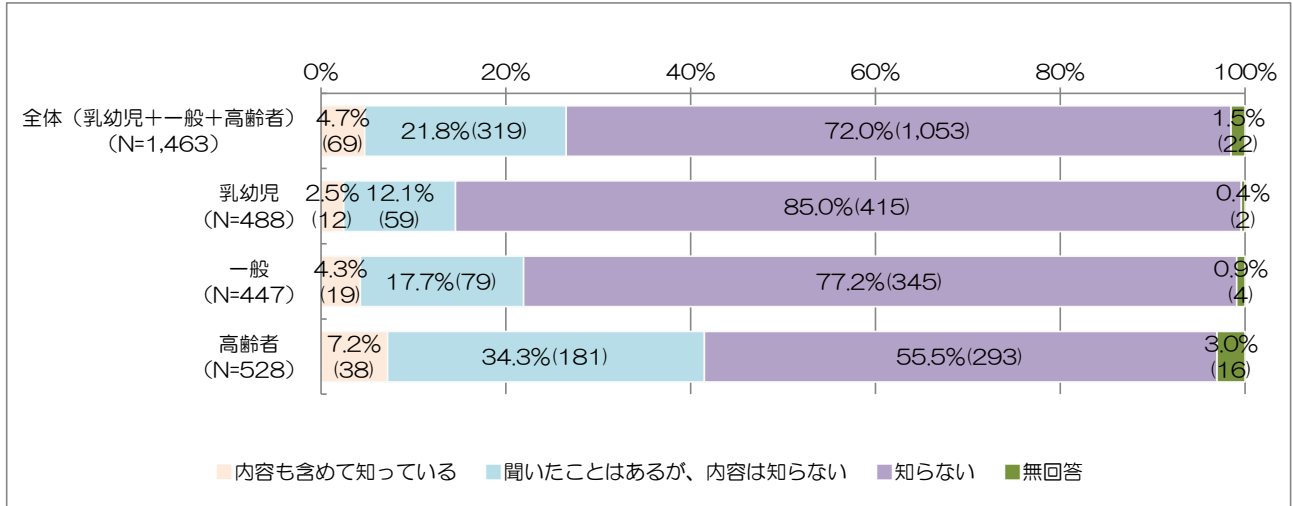
第5章 総括

【共通項目】（乳幼児・一般・高齢者）

1 セーフコミュニティについて

【セーフコミュニティの認識度について】（全体・乳幼児・一般・高齢者）

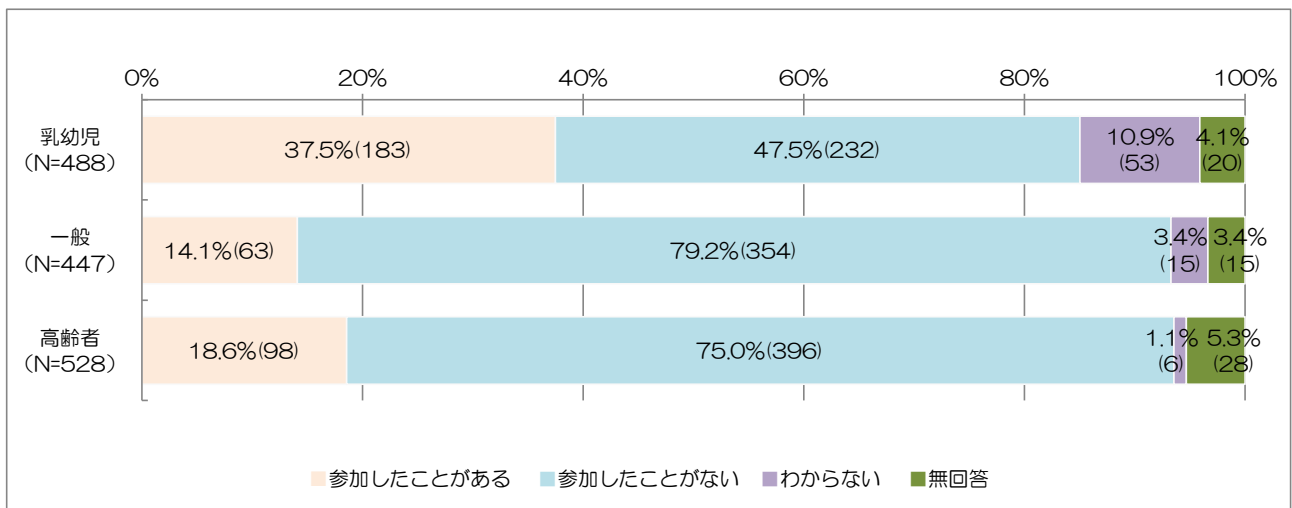
セーフコミュニティの認識度については、「知らない」の割合が、乳幼児が 85.0%、一般が 77.2%、高齢者が 55.5%となっており、乳幼児・一般に比べ、高齢者の認識度が高くなっている。



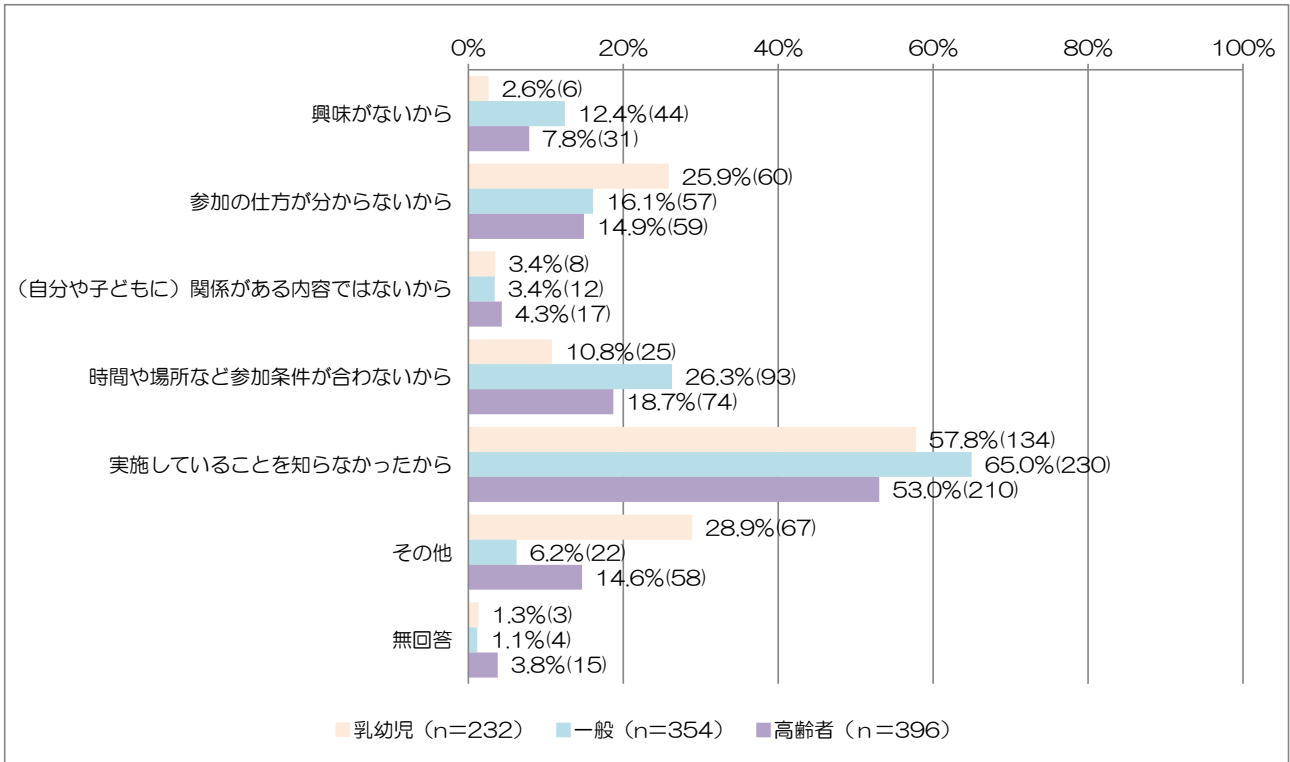
2 交通安全について

【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・一般・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」の割合が、乳幼児が 47.5%、一般が 79.2%、高齢者が 75.0%となっており、一般・高齢者に比べ、乳幼児の参加率が高くなっている。

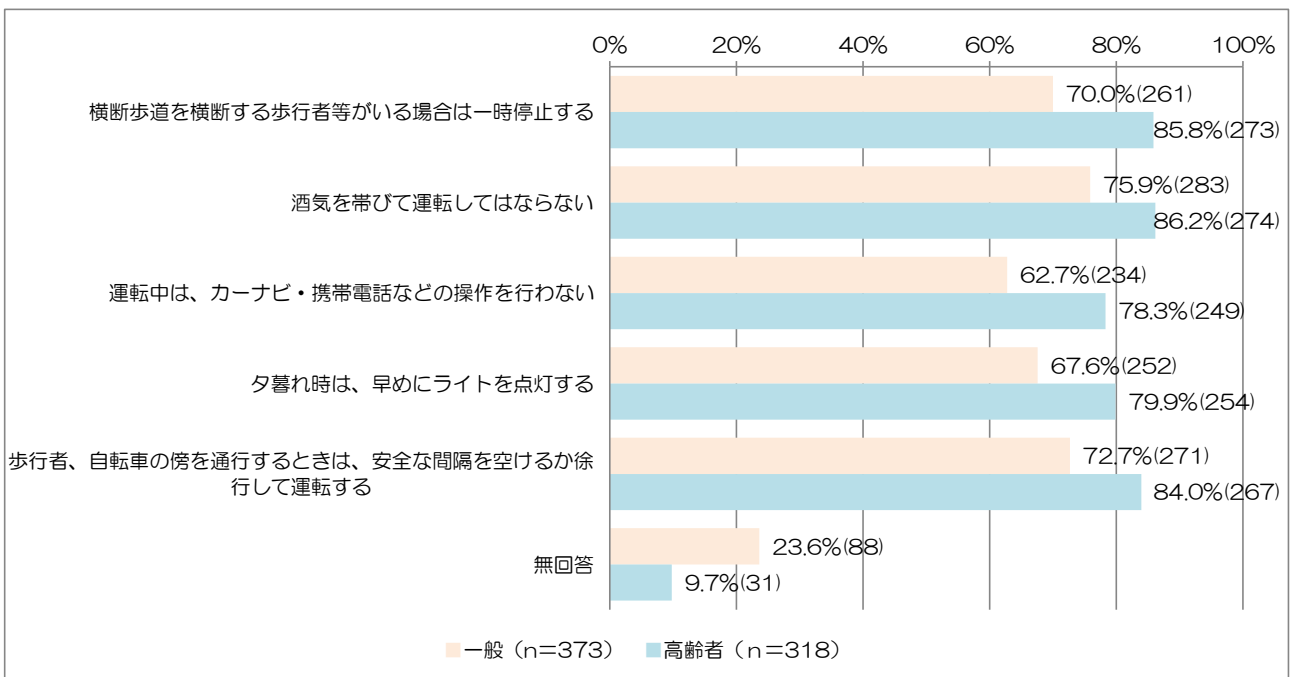


交通安全教室に参加したことがない理由については、いずれの調査においても「実施していることを知らなかったから」の割合が突出して高くなっており、交通安全教室開催の広報周知が必要であると考えられる。



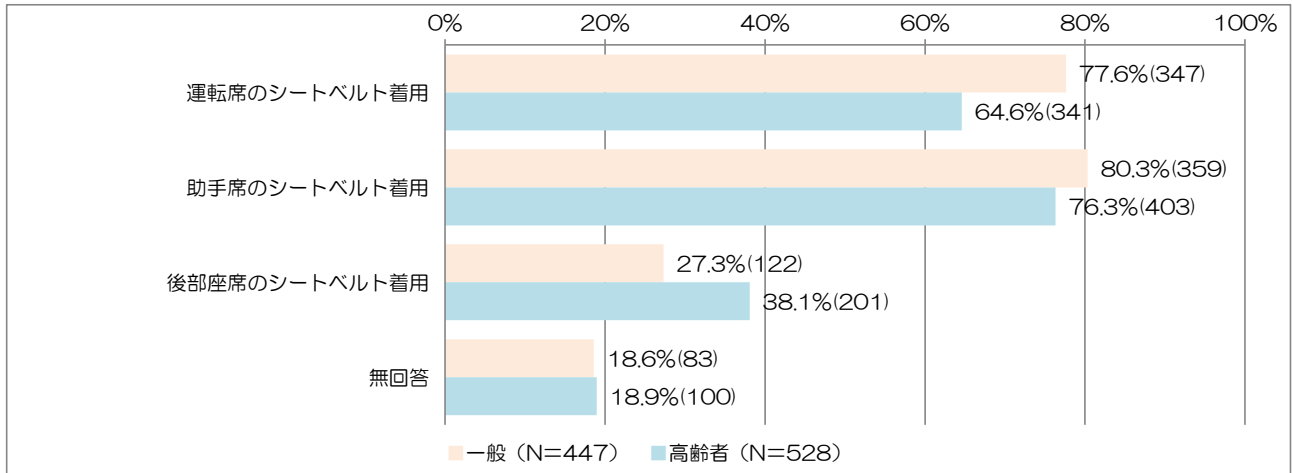
【自動車の運転に関する交通ルールの遵守度について】（一般・高齢者）

自動車の運転に関する交通ルールの遵守度については、高齢者の78.3%～86.2%に対し、一般は62.7%～75.9%と低くなっている。



【シートベルトの着用状況について】（一般・高齢者）

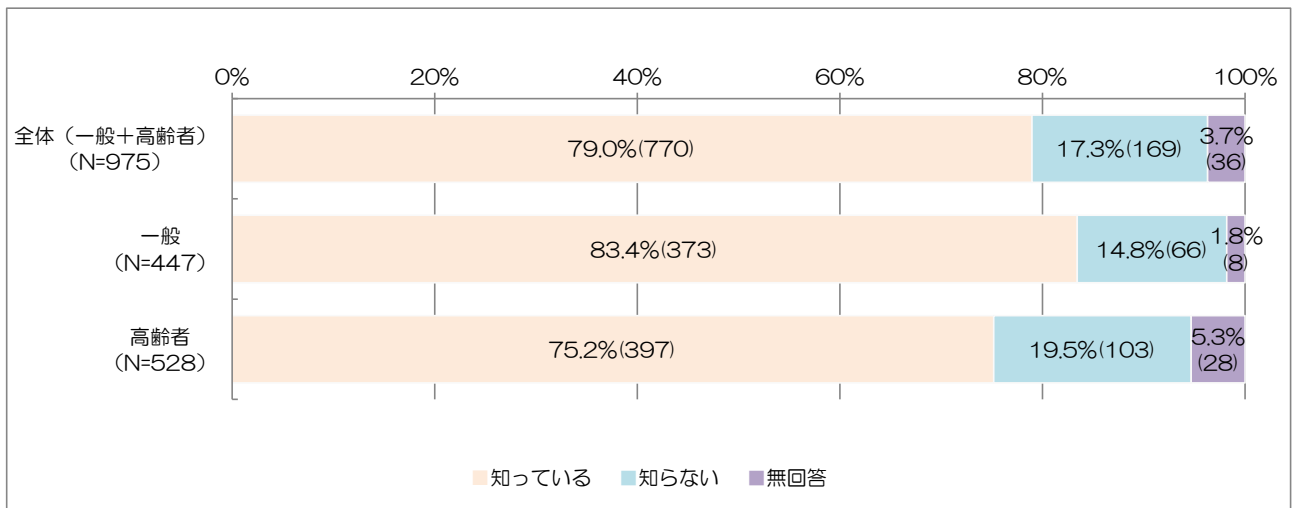
シートベルトの着用状況については、一般の27.3%～80.3%に対し、高齢者は38.1%～76.3%となっており、一般は高齢者と比べ、「運転席のシートベルト着用」の割合が高く、「後部座席のシートベルト着用」の割合が低くなっている。



3 高齢者の安全について

【認知症が病気によるものであることへの理解について】（全体・一般・高齢者）

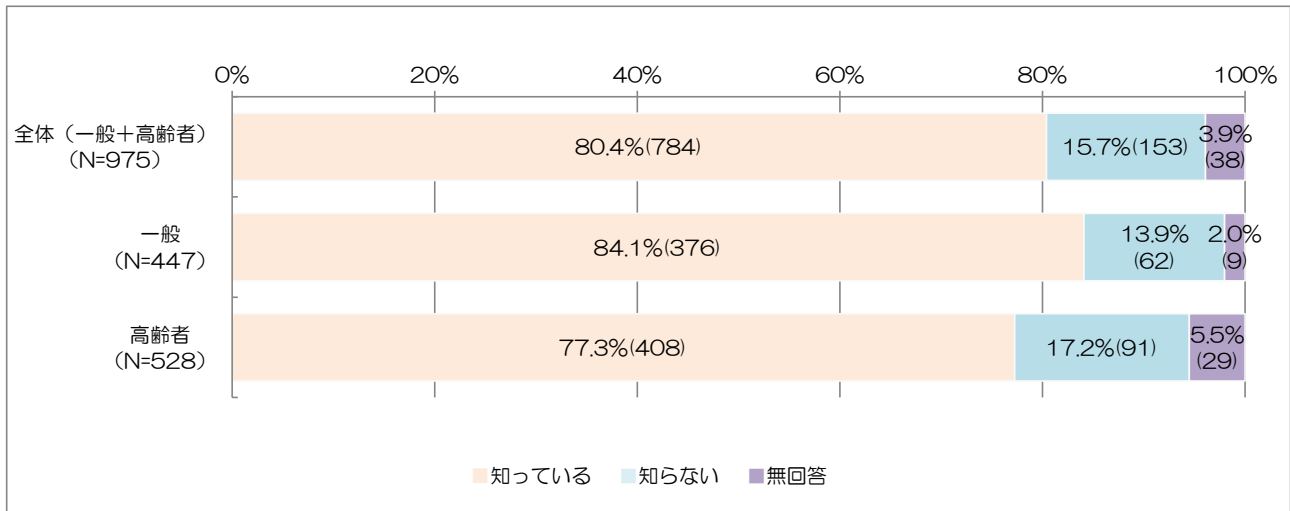
認知症が病気によるものであることについては、「知っている」の割合が、一般が83.4%、高齢者が75.2%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。



【認知症への理解不足が高齢者への虐待につながる可能性があることへの理解について】

(全体・一般・高齢者)

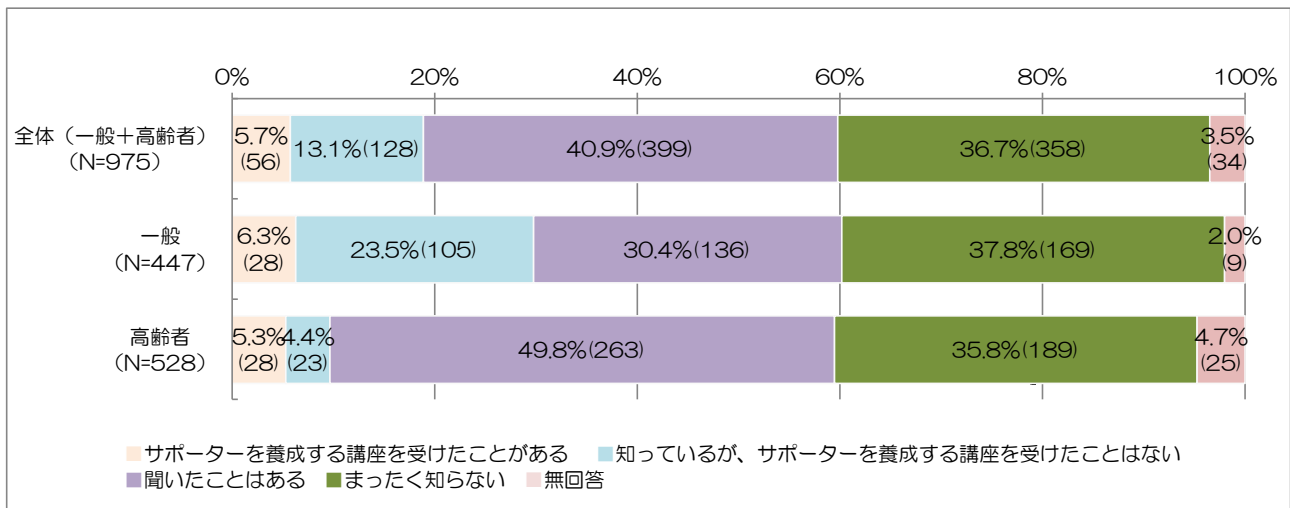
認知症への理解不足が高齢者への虐待につながる可能性があることについては、「知っている」の割合が、一般が84.1%、高齢者が77.3%となっており、高齢者に比べ、一般の理解度が高くなっている。



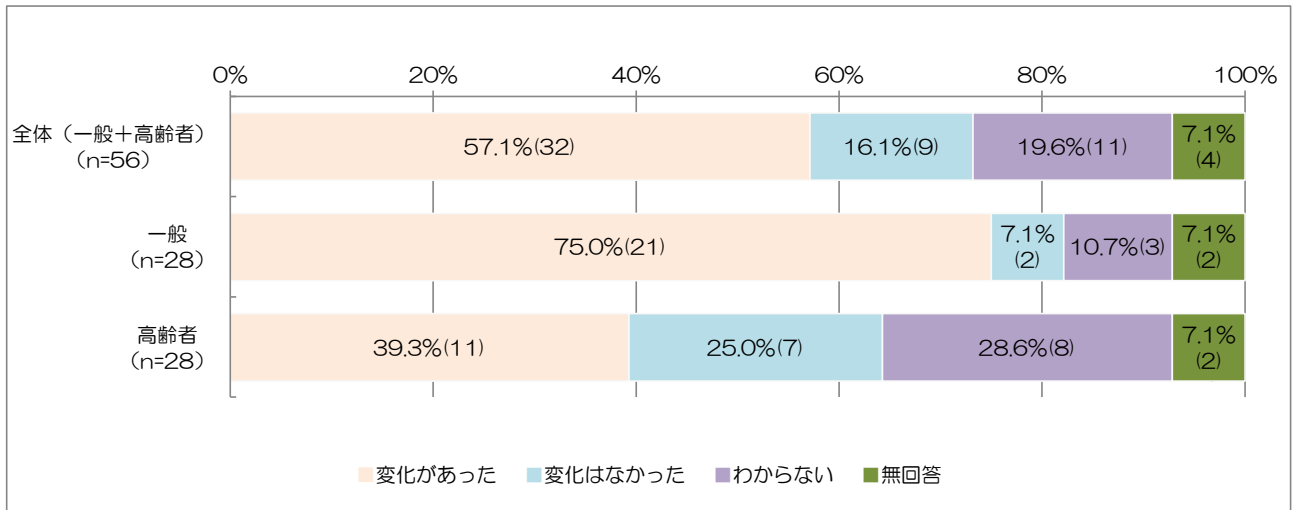
【認知症サポーターの認識度について】 (全体・一般・高齢者)

認知症サポーターについては、「まったく知らない」の割合が、一般が37.8%、高齢者が35.8%と大きな差異は見られない。

「認知症サポーター養成講座」受講率についても、一般が6.3%、高齢者が5.3%と大きな差異は見られない。



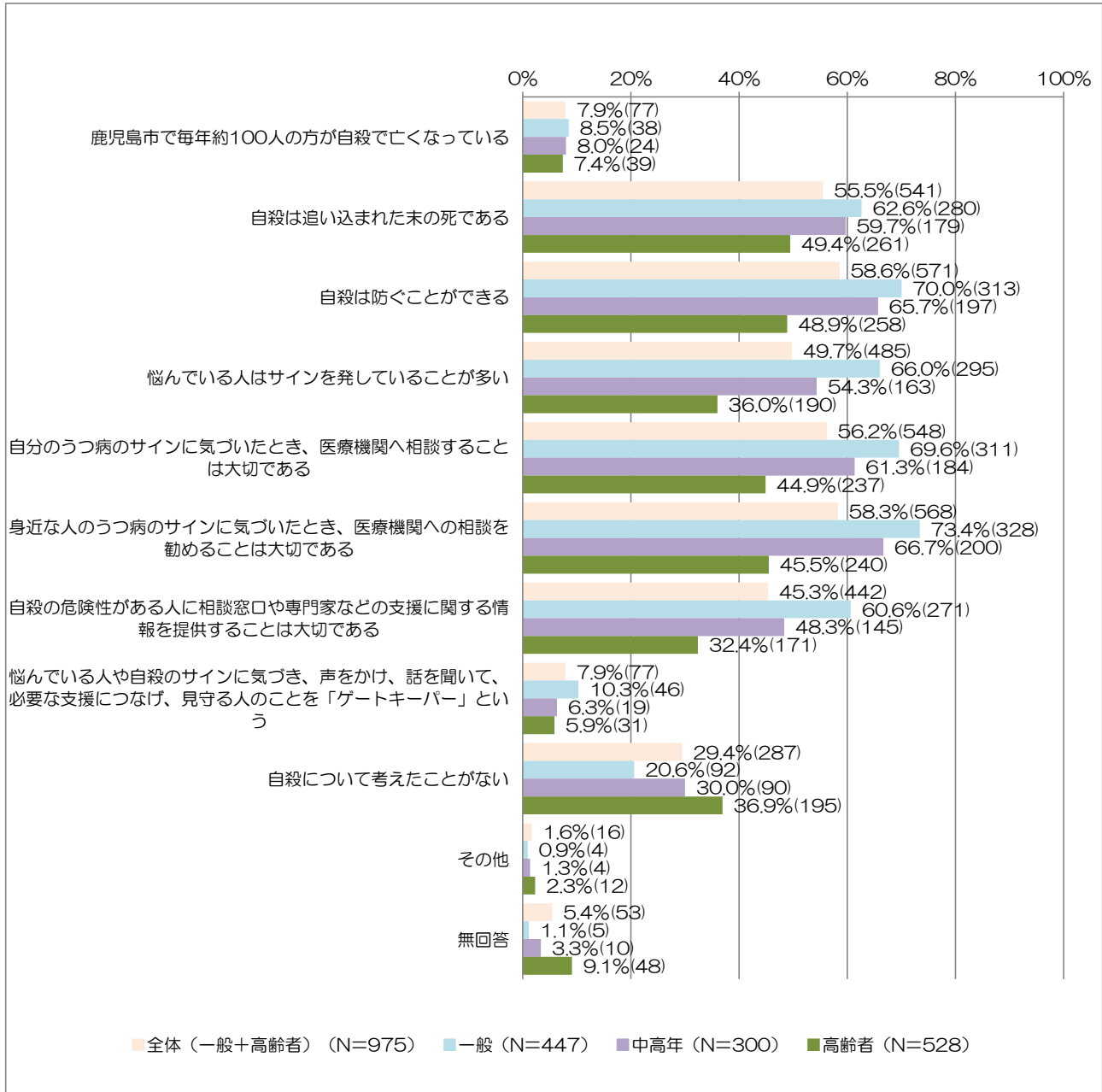
「認知症サポーター養成講座」受講者の認知症の方への対応の変化については、「変化があった」の割合が、一般が75.0%、高齢者が39.3%となっており、高齢者に比べ、一般の変化があった割合が高くなっている。



4 自殺予防について

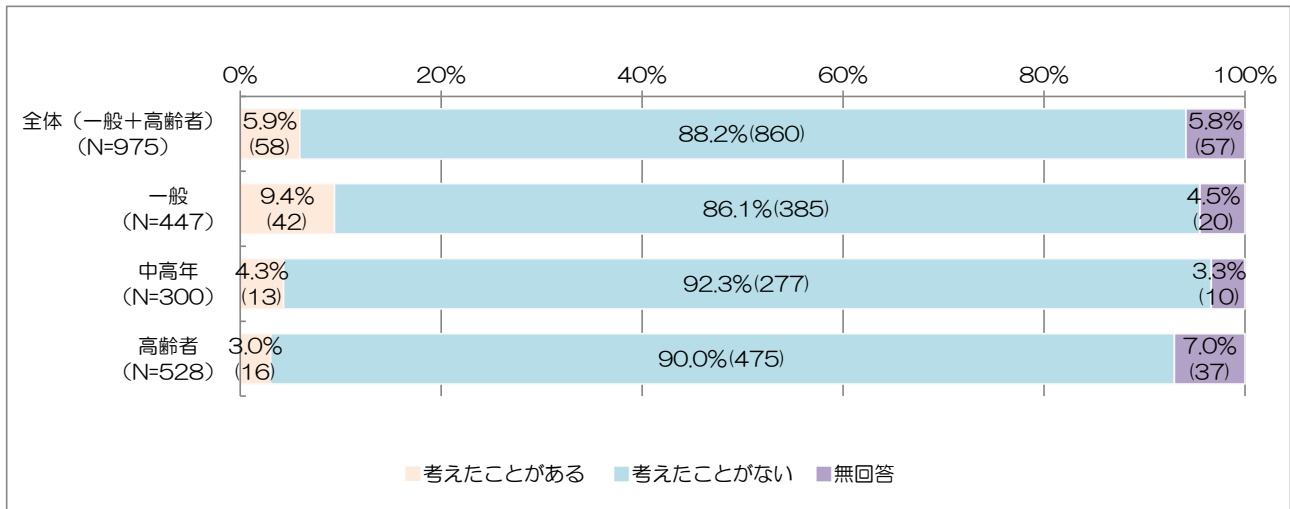
【自殺についての認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者） ※中高年…50歳～69歳

自殺についての認識度については、「自殺について考えたことがない」「その他」を除くすべての項目で、一般が高齢より高くなっており、年齢が低くなるほど自殺についての認識度が高くなっている。



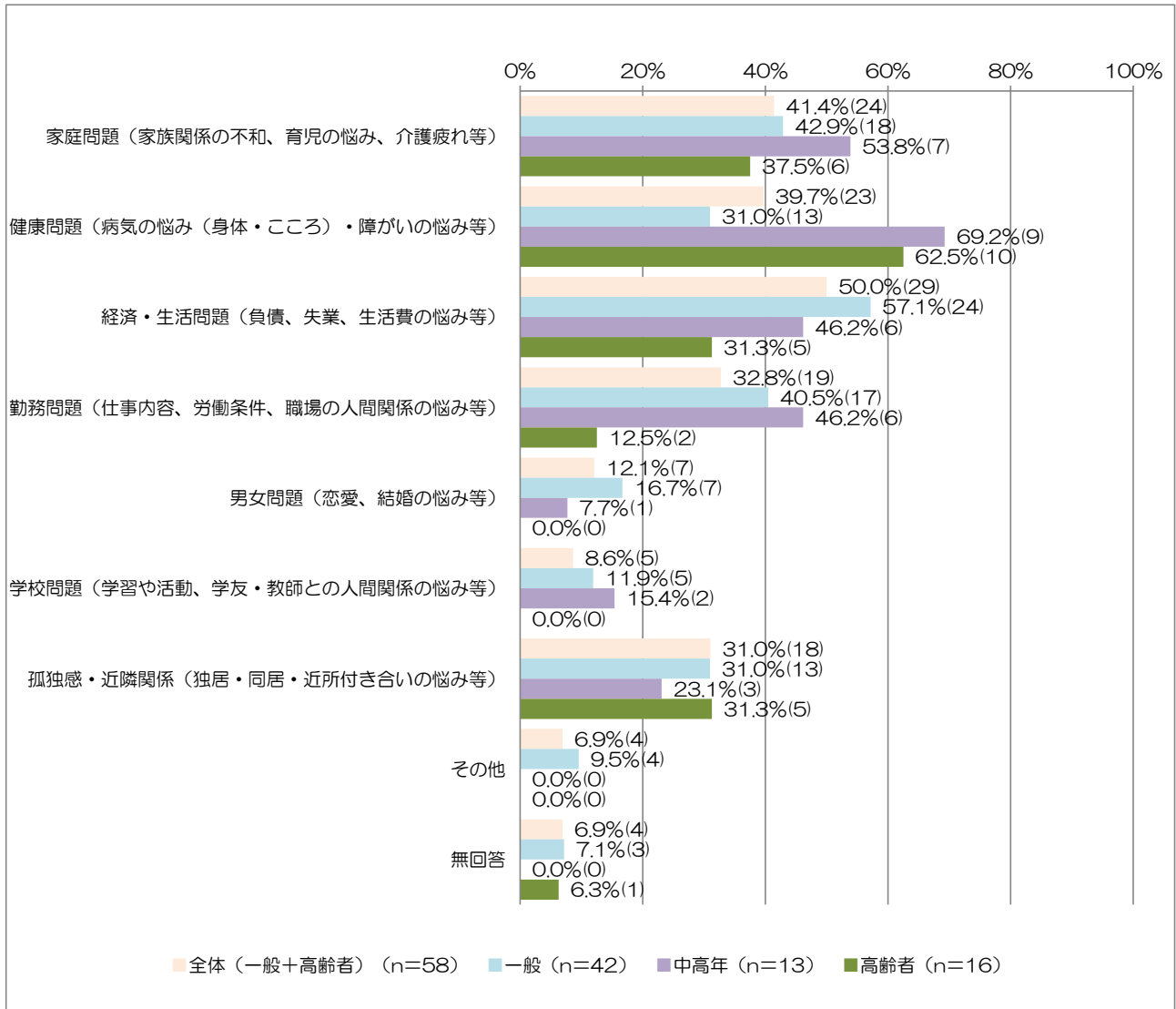
【自殺したいと考えた経験について】（全体・一般・中高年・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」の割合が、一般が9.4%、中高年が4.3%、高齢者が3.0%となっており、年齢が低くなるほど自殺したいと考えたことがある割合が高くなっている。

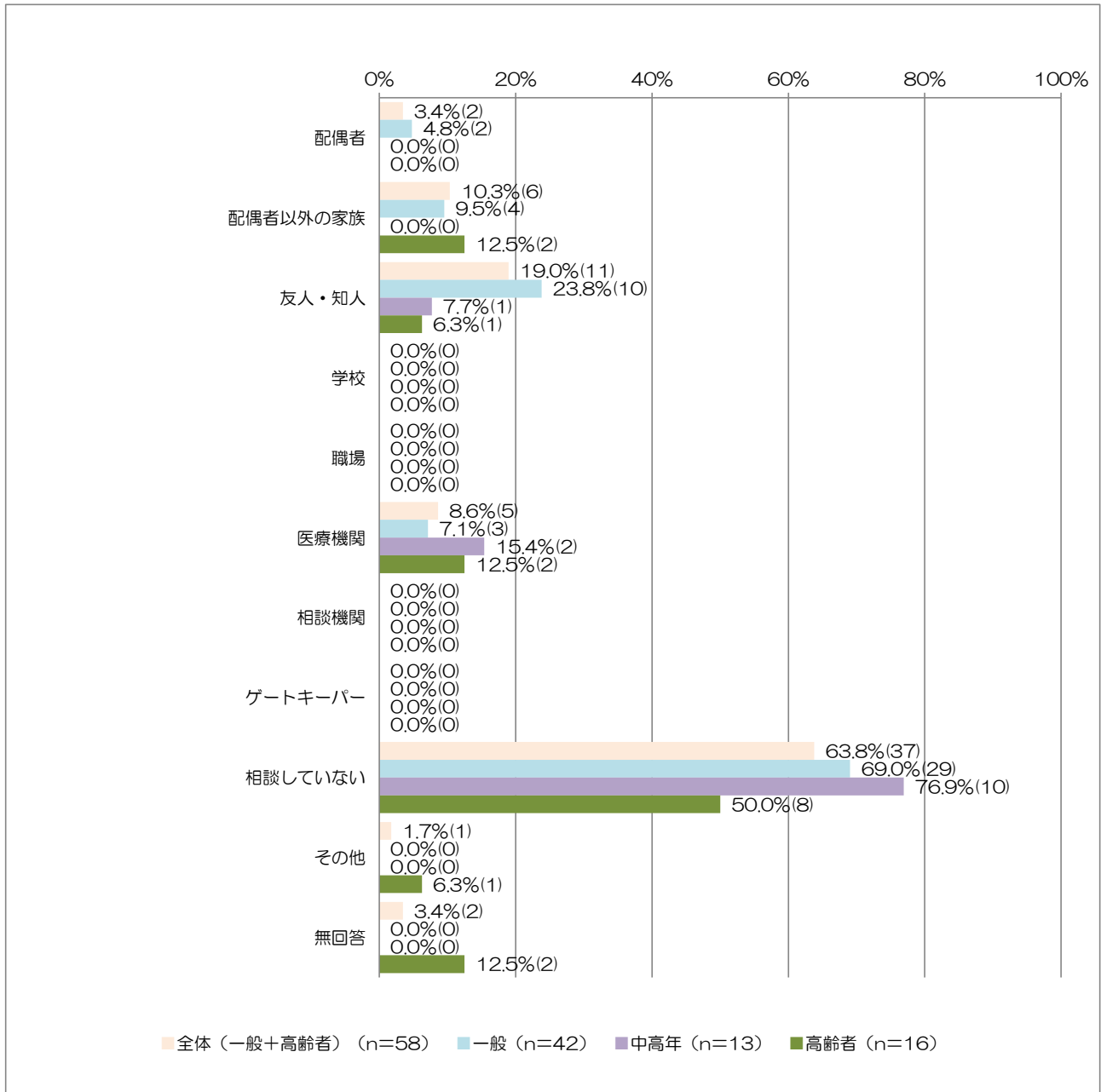


【総括】

自殺したいと考えたときの原因については、一般では「経済・生活問題（負債、失業、生活費の悩み等）」が57.1%、中高年・高齢者では「健康問題（病気の悩み（身体・こころ）・障がいの悩み等）」がそれぞれ69.2%、62.5%と最も高くなっている。

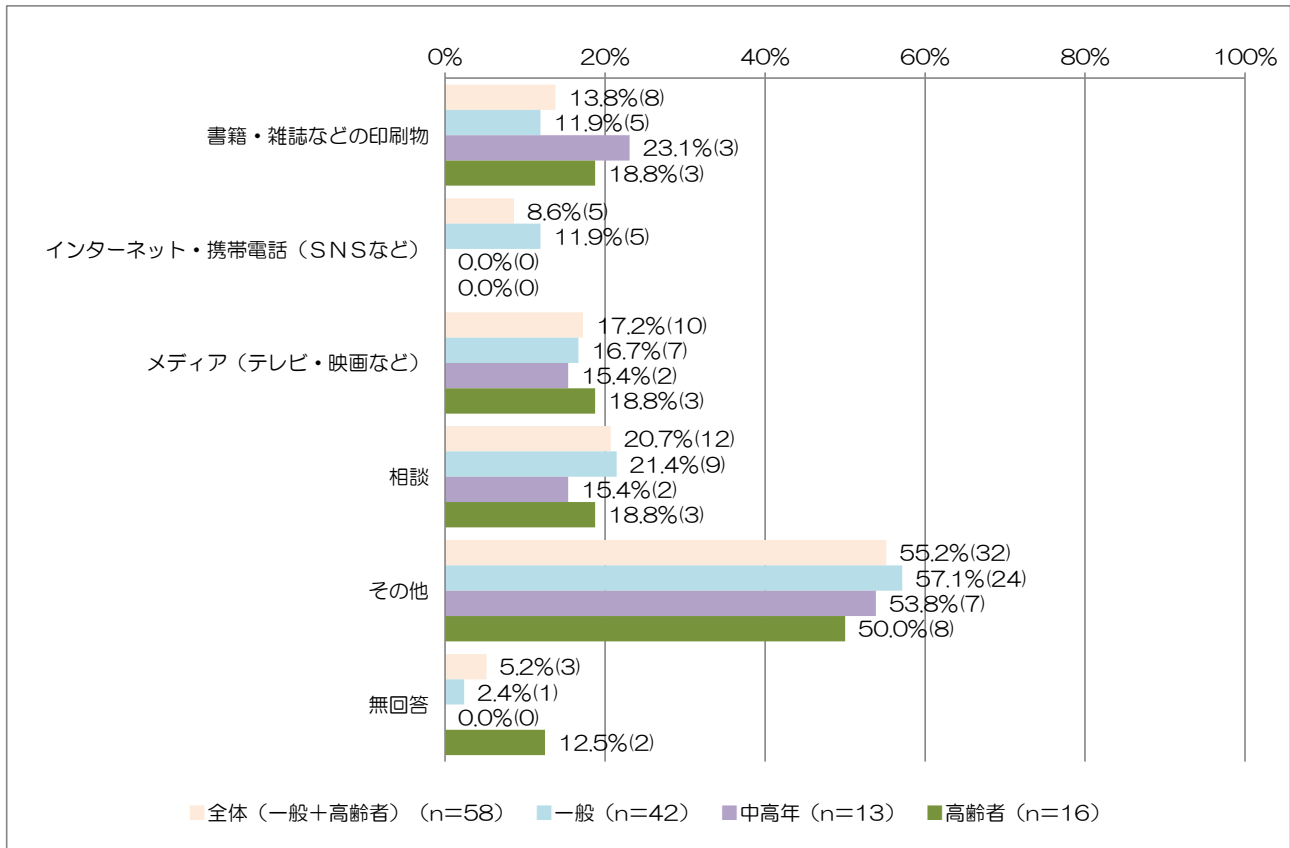


自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」の割合が、一般が 69.0%、中高年が 76.9%、高齢者が 50.0%とそれぞれ最も高くなっている。



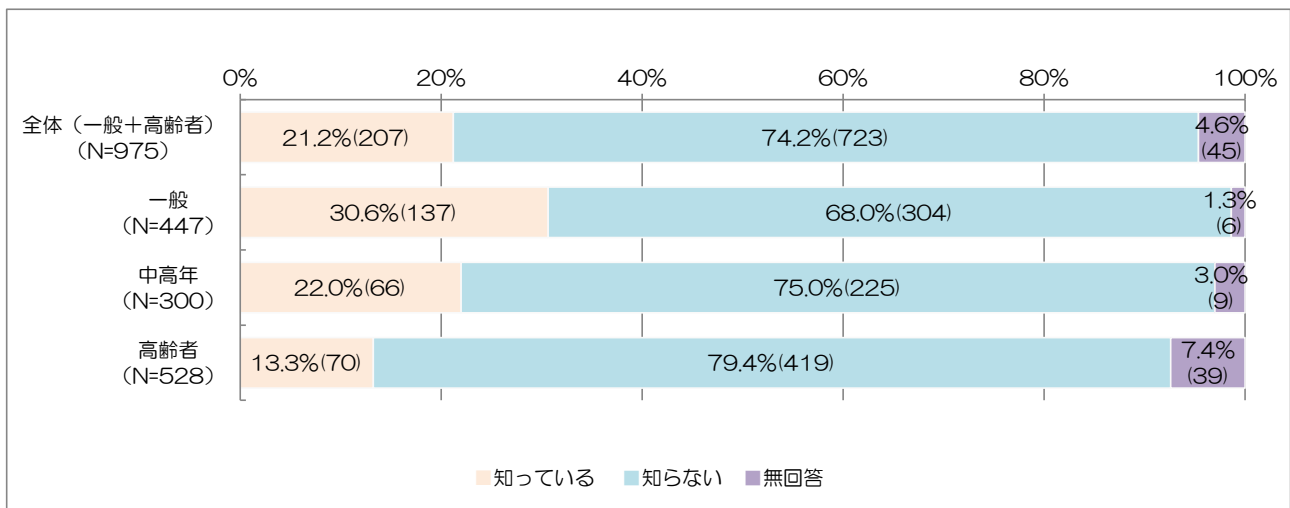
【総括】

自殺を踏みとどまることができた要因については、「その他」を除くと、一般では「相談」が21.4%、中高年では「書籍・雑誌などの印刷物」が23.1%とそれぞれ最も高くなっている。高齢者ではその他を除くと、「書籍・雑誌などの印刷物」「メディア（テレビ・映画など）」「相談」のみに回答が得られた。



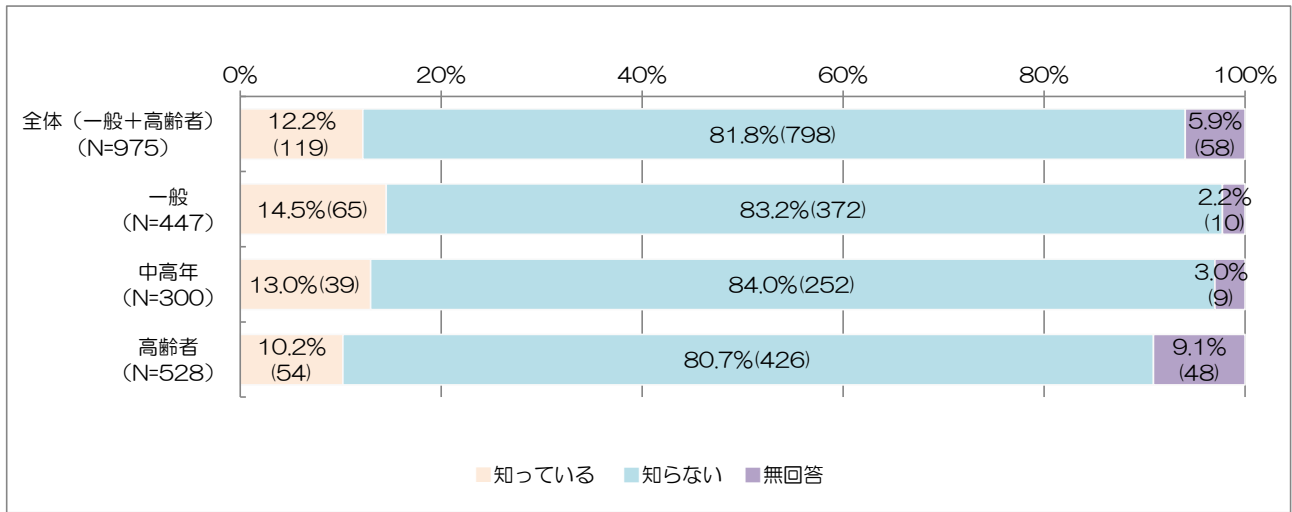
【自殺に関する相談先の認識度について】（全体・一般・中高年・高齢者）

自殺に関する相談先の認識度については、「知っている」の割合が、一般が30.6%、中高年が22.0%、高齢者が13.3%となっており、年齢が低くなるほど自殺に関する相談先の認識度が高くなっている。

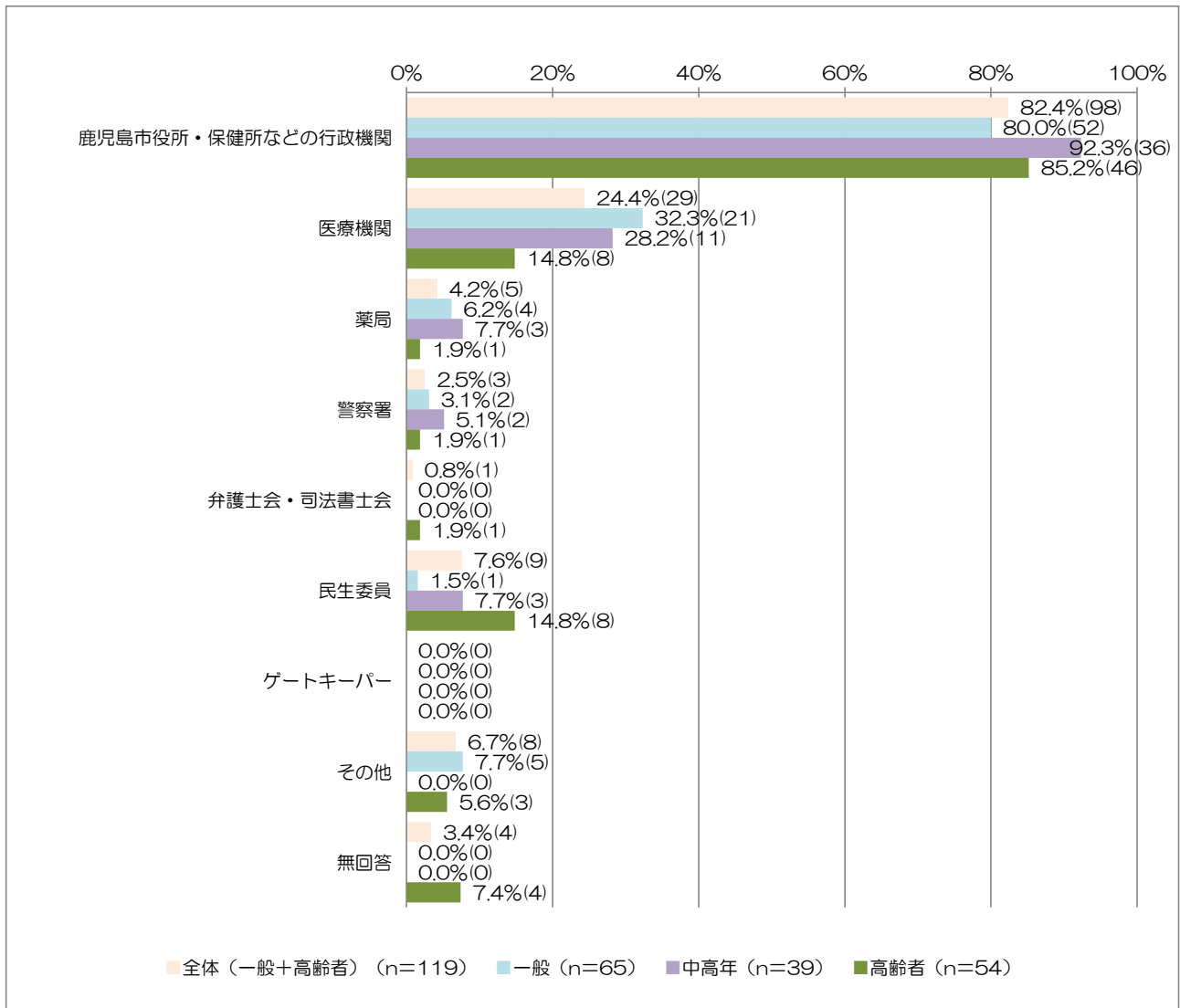


【『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度について】(全体・一般・中高年・高齢者)

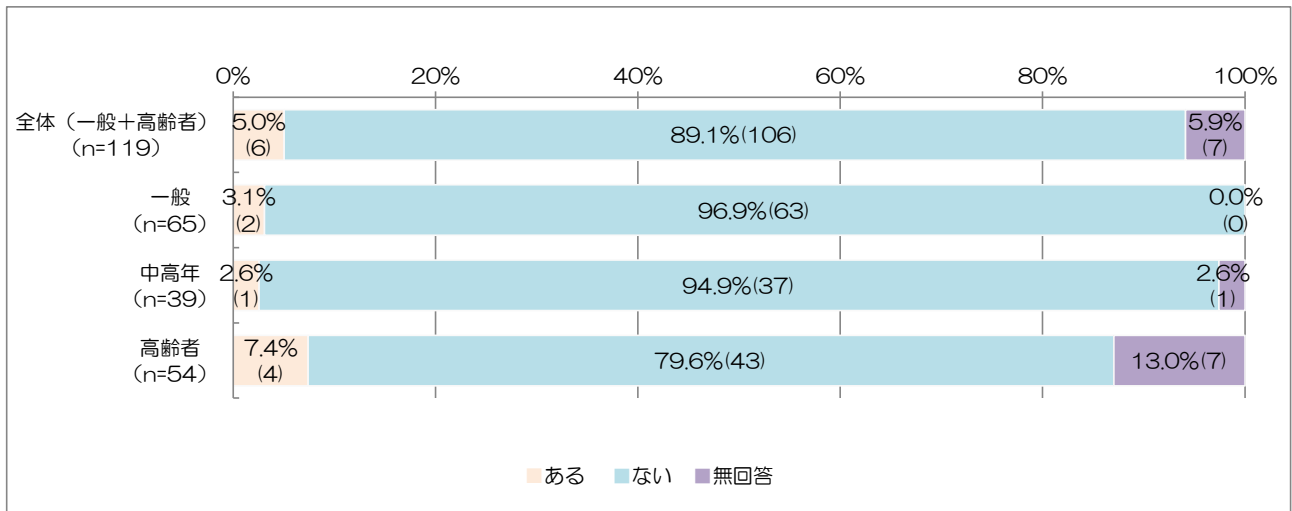
『鹿児島市無料相談窓口』カードの認識度については、「知っている」の割合が、一般が14.5%、中高年が13.0%、高齢者が10.2%と大きな差異は見られない。



『鹿児島市無料相談窓口』カードをどこで(誰から)知ったかについては、一般・中高年・高齢者ともに「鹿児島市役所・保健所などの行政機関」の割合が最も高くなっている。

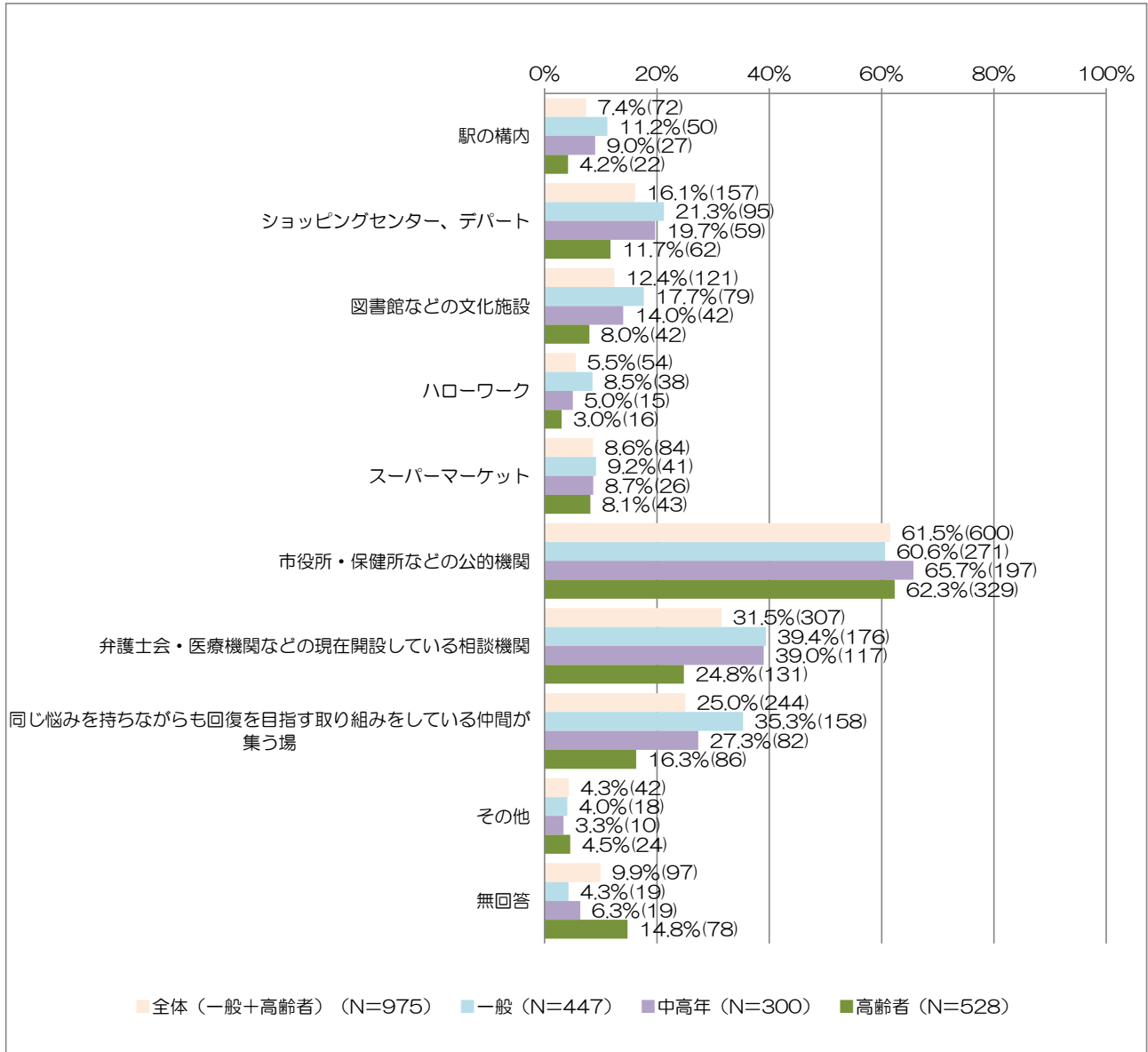


『鹿児島市無料相談窓口』カードを使って相談したことがあるかについては、「ある」の割合が、一般が3.1%、中高年が2.6%、高齢者が7.4%となっている。

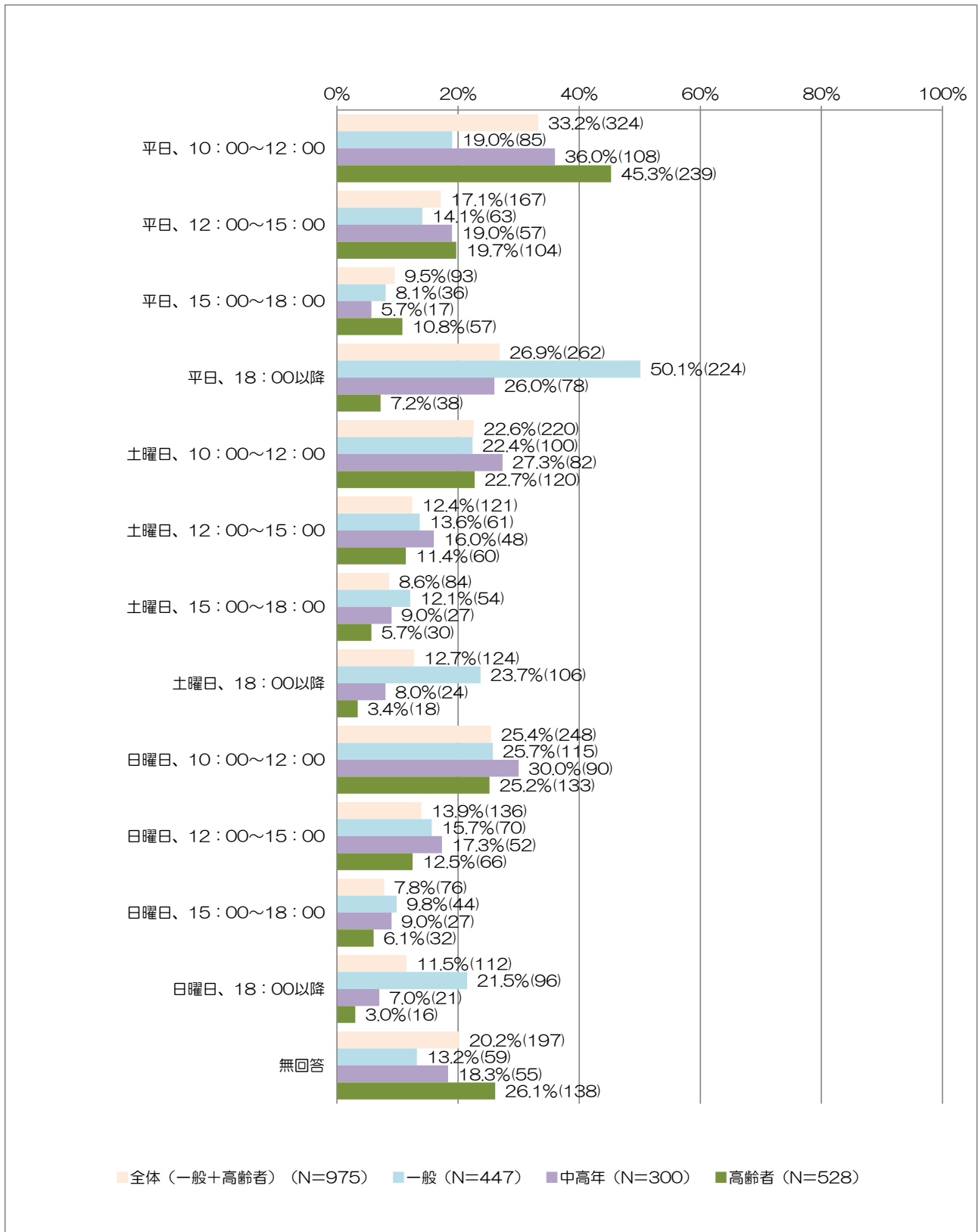


【相談しやすい場所・時間帯について】（全体・一般・中高年・高齢者）

相談しやすい場所については、一般・中高年・高齢者いずれも「市役所・保健所などの公的機関」の割合が最も高く、ともにおよそ6割占めているが、その他の回答項目については、年齢が低くなるほど回答割合が高くなっており、若い世代ほど多様な相談先を求めていると言える。



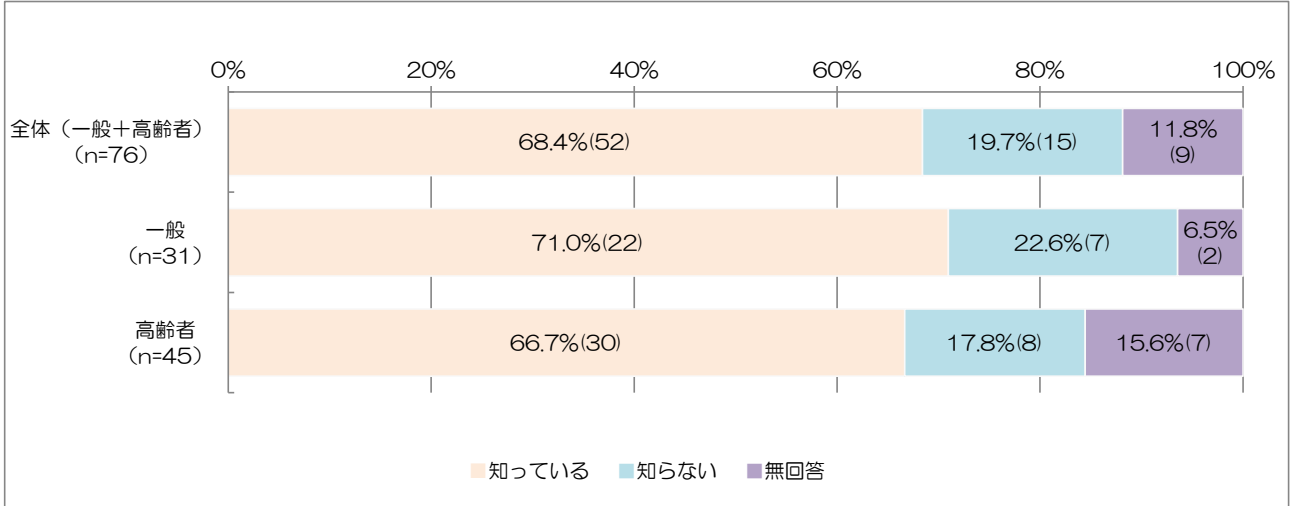
相談しやすい時間帯については、一般では「平日、18：00以降」が50.1%、中高年・高齢者では「平日、10：00～12：00」がそれぞれ36.0%、45.3%と最も高くなっている。



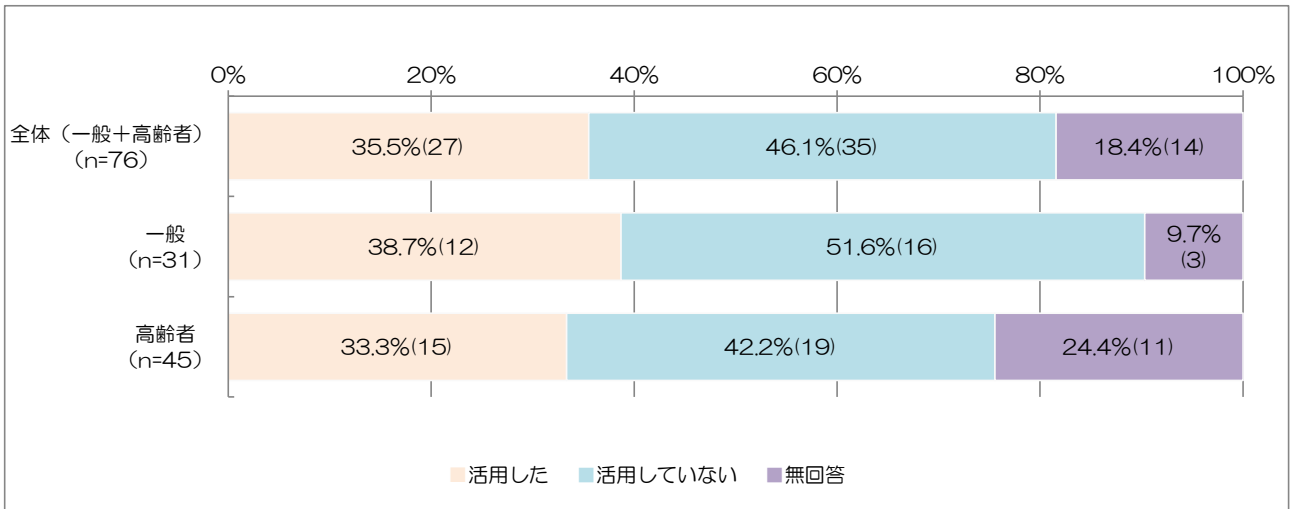
5 桜島の防災について

【「桜島大噴火 避難手順書」について】(全体・一般・高齢者)

『桜島大噴火 避難手順書』の認識度については、「知っている」の割合が、一般が71.0%、高齢者が66.7%となっている。



『桜島大噴火 避難手順書』の訓練での活用状況については、「活用した」の割合が、一般が38.7%、高齢者が33.3%となっている。

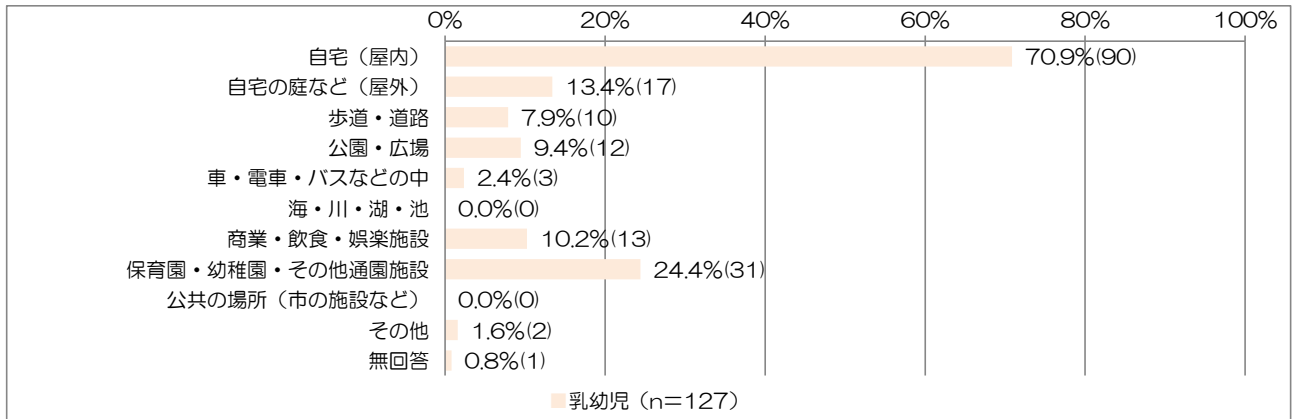


【再掲項目】（乳幼児・一般）

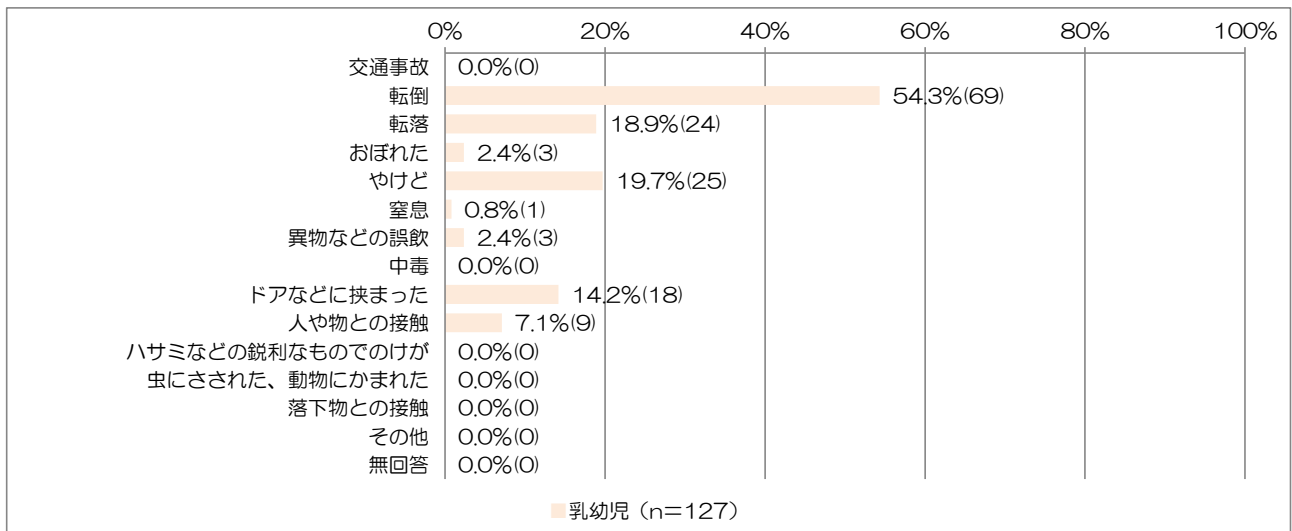
1 子どもの安全について

【事故やけがの経験について】（乳幼児）

事故やけがをした場所については、「自宅（屋内）」が70.9%と最も高く、次いで、「保育園・幼稚園・その他通園施設」の24.4%、「自宅の庭など（屋外）」の13.4%の順となっている。



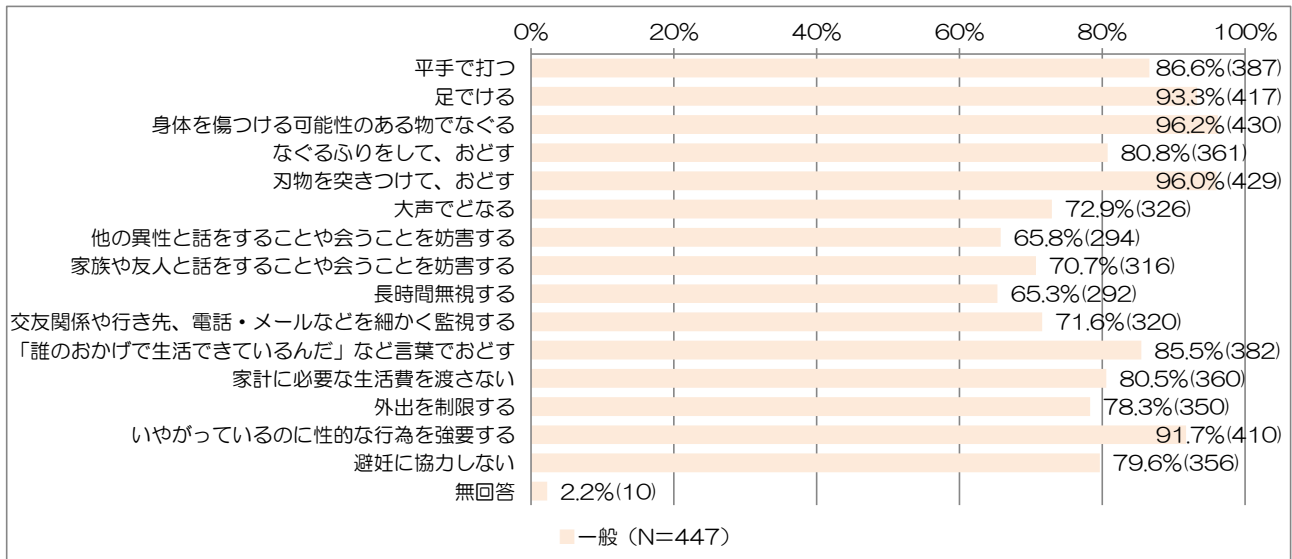
事故やけがの種類については、「転倒」が54.3%と最も高く、次いで、「やけど（熱湯、アイロンなど）」の19.7%、「転落」の18.9%の順となっている。



2 配偶者等からの暴力（DV）について

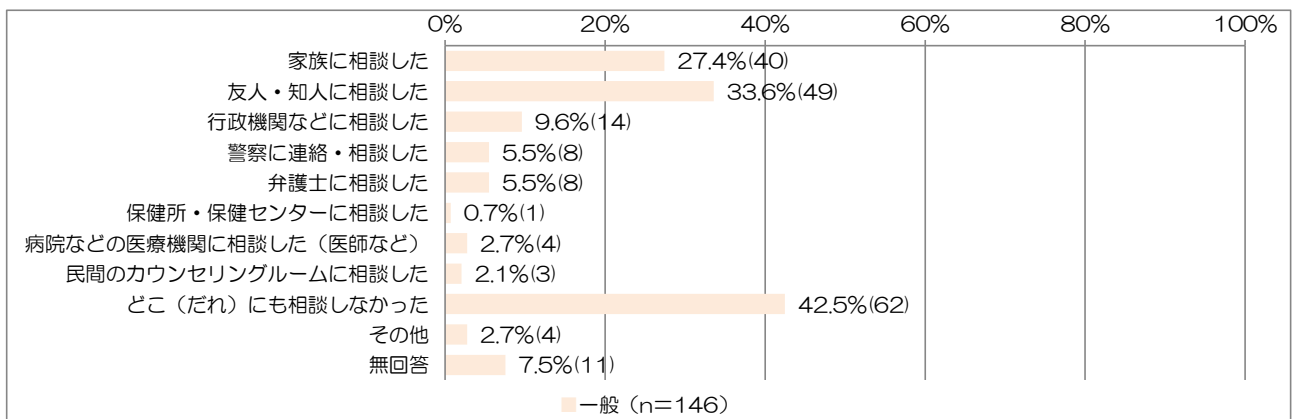
【暴力だと思うことについて】（一般）

暴力だと思うことについては、「身体を傷つける可能性のある物でなくる」が96.2%と最も高く、次いで、「刃物を突きつけて、おどす」の96.0%、「足でける」の93.3%の順となっており、「身体的暴力」についての認知に比べ、「精神的暴力」についての認知が進んでいないことが伺える。



【暴力の相談状況について】（一般）

配偶者等からの暴力（DV）の相談状況については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が42.5%と最も高く、次いで、「友人・知人に相談した」の33.6%、「家族に相談した」の27.4%の順となっている。



【暴力を相談しない理由について】（一般）

配偶者等からの暴力（DV）を相談しない理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が53.2%と最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」の29.0%、「個人的なことだから、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから」の27.4%の順となっている。

